

今週の T2 経済レポート



2022年5月13日号

■■■ 市場ウオッチ ■■■

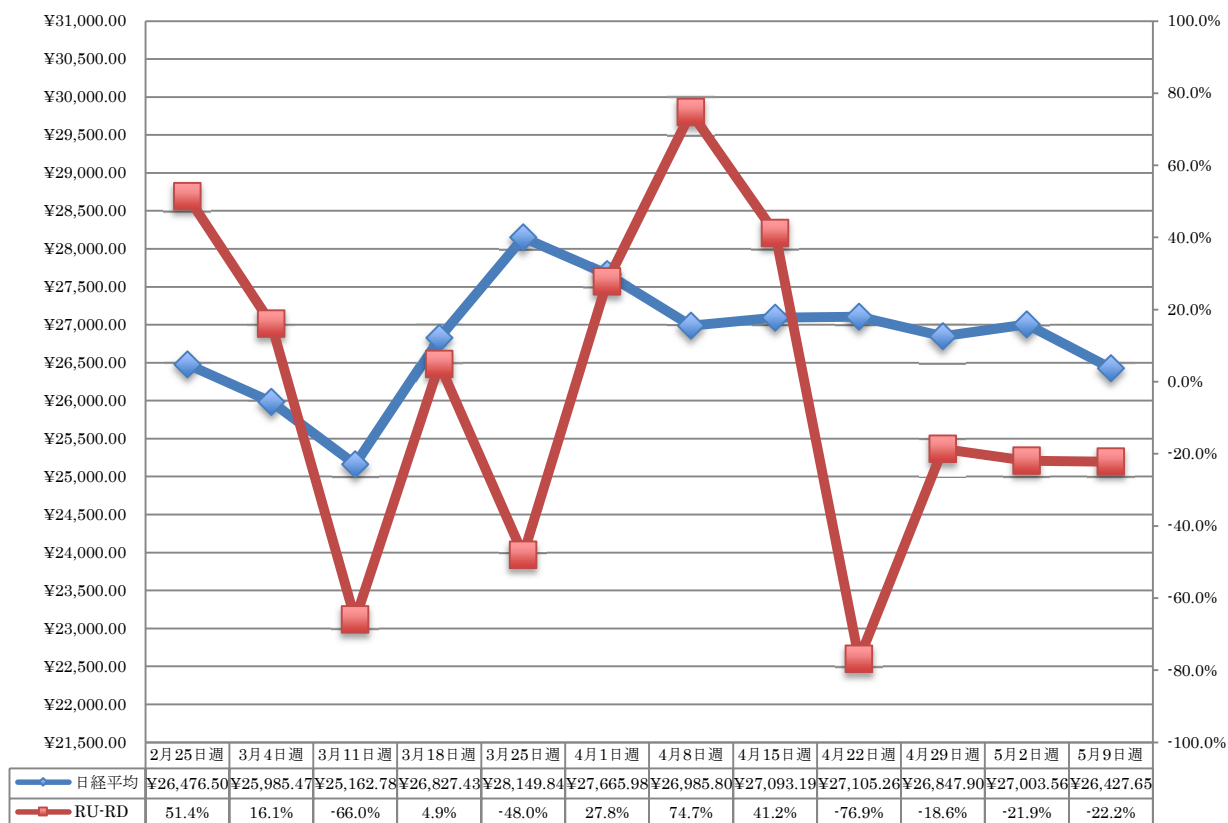
<先週のマーケットを振り返る>

先週、「今週は本来ですとさらに軟調相場が継続する週となりそうです。今週(5/9~5/13)の相場を占う『RU-RD 指標』の4月29日週が-22.2%と4週連続でマイナス圏に陥っていることから、さらに軟調相場が継続しそうです。さらに、来週(5/16~5/20)の相場を占う5月6日週が-3.1%と5週連続でマイナス圏に陥っていることから、さらに軟調相場が継続しそうです。僅かなマイナスで17年7月24日週~8月21日週以来となる5週連続マイナス圏となりましたが、極めて希な現象です。先週、『4週連続マイナス圏は21年9月13日週~10月4日週以来で、このときの4週連続マイナス圏は、コロナショック以降の最高値を記録した21年9月17日週高値30795円→10月8日週安値27293円まで-3502円、-11.7%の急落となっています。先週も指摘したように、今回の4週連続マイナス圏での高値は4月5日高値28020円で、その後の安値は今のところ4月27日26051円です。現段階では、高値から-1969円、-7%の急落となっていますが、仮に、前回9月の下落幅-3502円を当てはめると約24500円、また下落率-11.7%を当てはめると約24700円と試算されることから、まだ下落余地が残されている可能性があります。今週は5/3~5/4に0.5%の利上げが予想される米連邦公開市場委員会(FOMC)、週末6日には4月米雇用統計発表、また来週9日にロシアの「対独戦勝記念日」、週末13日はオプションのミニSQを迎えるなど5月上旬は投機筋の外国人には相場操縦をしやすい重要イベントが目白押しといったところです。』と指摘したように、この「4週連続マイナス圏」を重視すべきで、実際、米連邦公開市場委員会(FOMC)後の4日、5日にNYダウが1000ドル超の上下と乱高下が起きて、相場操縦の実態が明らかになっています。今週末13日にオプションのミニSQを迎えるためか日経平均は4月27日の26000円大台割れ目前から不自然な買い上げが行われているのかもしれませんが、9日のロシアの「対独戦勝記念日」を利用してどのような相場操縦を仕掛けるのかが注目されます。何度も指摘してきましたが、『日本では年度末にあたり、3月末の株価をどうしても高くしなければいけない不都合な事情があるのかと思われます。実際、昨年3月や9月にも同様な株価操縦がみられ、特に、昨年8月末の「菅首相総裁選不出馬」を理由に株価を吊り上げて9月末株価を高くしたことは記憶に新しいところで

す。つまり、半期に一度の年度末の株価を株価操縦しなければならないほど何らかの組織は追い込まれている実態が浮かびあがっています。』と、現在はその株価操縦の反動安の時間帯に入っていることを意味します。一方、『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング 1 と 2)」「売り(レーティング 3 と 4)」銘柄比率』が 22 年 4 月 1 日週+61.4%→4 月 8 日週+7.1%→4 月 15 日週-1.4%→4 月 22 日週-10.0%→4 月 29 日週-14.3%→5 月 6 日週-14.3%と、4 週連続でマイナス圏に陥っています。3 月 21 日週+51.4%→3 月 28 日週+61.4%と、2 週連続の上限ゾーンからの急落ですが、半年前の昨年 9 月にも 21 年 9 月 6 日週+50.0%→9 月 13 日週+47.1%の 2 週連続の上限ゾーンから急落しており、『RU-RD 指標』の 4 週～5 週連続マイナス圏と共に、T2 指標が昨年 9 月以降と全く同じパターンなのは共に、株価操縦が行われていたことを示しています。ちなみに、移動平均ベースの同指標は 4 月 8 日週+1.0%→4 月 15 日週+6.2%→4 月 22 日週+12.6%→4 月 29 日週+15.7%→5 月 6 日週+4.8%と逆に、5 週連続でプラス圏を維持しており、株式市場の底打ちはまだまだ先であることを示唆。何故なら、過去、株価が底入れするにはこの移動平均ベースの同指標が「-40%の下限ゾーン」に陥ることが条件だからです。気の早い市場関係者には「株価底入れ」と煽る方も多いようですが、短期的な反発の底値は別としても、今回の暴落の底値と考えているようですと T2 指標から見れば大きな勘違いということになります。実際、4 月 29 日週に、NY ダウの T2 レーティングが 3 月 18 日週以来となる「売り転換」となっていることも再び、下落相場に入ったことを示唆しています。

今週は、経済指標では、国内は、5 月来週は 9 日に日銀金融政策決定会合議事要旨(3 月 17-18 日開催)、3 月毎月勤労統計調査、10 日に 3 月家計調査、11 日に 3 月景気動向指数、12 日に日銀金融政策決定会合の主な意見(4 月 27-28 日開催)、4 月都心オフィス空室率、4 月景気ウォッチャー調査、一方海外で、5 月 9 日に中国 4 月貿易収支、11 日に中国 4 月 PPI、中国 4 月 CPI、米 4 月 CPI、米 4 月財政収支、米 10 年国債入札、12 日に米 4 月 PPI、米 30 年国債入札、13 日に米・5 月ミシガン大学消費者信頼感指数速報、などの発表が予定されています。今週は物価指標に注目が集まりそうですが、11 日発表の米 4 月消費者物価指数(CPI)コア指数は前年比+6.1%と、上昇率は 3 月実績の+6.5%を下回る見通しで、仮に、インフレ率が市場予想を上回った場合、さらなる金利高・ドル高の要因となりそうなため要注意。また、13 日発表の 5 月ミシガン大学消費者信頼感指数(速報値)は 63.7 と、4 月実績の 65.2 を下回る見込みですが、仮に、市場予想を下回った場合は逆に、金利安・ドル安の要因となりそうです。このほかのイベント・トピックスとしては、国内では、5 月 13 日に 5 月限オプション取引に係る特別清算指数(SQ)算出、一方、海外は、5 月 10 日に米・アトランタ連銀総裁が講演、が予定されています。」とコメントしました。

RU-RD指標と日経平均（週末終値）



4月22日週	4月29日週	5月2日週	5月9日週
¥27,105.26	¥26,847.90	¥27,003.56	¥26,427.65
-76.9%	-18.6%	-21.9%	-22.2%

先週の日経平均は、高値 26732 円(5月9日)・安値 25688 円(5月12日)と推移、実質は5週間振りの前半高・後半安の弱いかたち。先週は、前の週末に発表された米4月雇用統計の結果を受け、連邦準備制度理事会(FRB)の金融引き締めへの警戒感が一段と強まるなか米10年債利回りが2018年11月以来の高水準を記録、さらに11日に発表された米CPIが予想を上回ったことで金融引き締め加速の懸念が再び強まりハイテク株を中心に売りが加速し、米主要株価指数が揃って年初来安値を更新、東京市場も下落を強いられて下値目標値を達成、週末13日の5月限オプション取引に係る特別清算指数(SQ)後は一気に買い戻しが強まり678円高と一転して大幅反発、週間ベースでは-576円安と大幅反落ながらも一時、1300円超の大幅下落からは下げ幅を縮小して終了しています(先週予告していた上値メド 27105円~27647円(+2%かい離)//下値メド 26163円~25639円(-2%かい離))。『大台替えと時間の物理学的法則』では、小刻みの大台替えて、5月10日に26000円大台割れで下落スタートとなりました。25500円大台割れでカウントダウンの下落局面、逆に、26500円大台替えて仕切り直しが入ります。中期の大台替えては、4月7日に

27000 円大台割れで下落スタート、5 月 10 日に 26000 円大台割れでカウントダウンの下落局面入りに 1 ヶ月と 3 日間、従って、6 月 13 日までに 25000 円大台割れでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りました。逆に、27000 円大台替えて仕切り直しが入ります。また長期の方向を示す月ベースの大台替えの法則では、5 月に 26000 円大台割れで下落スタートとなりました。25000 円大台割れでカウントダウンの下落局面、逆に、27000 円大台替えて仕切り直しが入ります。これで短期↓、中期↓、長期↓となり、全てが弱含みに変化したことで下落しやすいかたちに変化しました。以前から「26000 円大台を割り込むと下落が加速しやすくなりますので要注意です。」と指摘してきましたが、それが現実化しました。

日経平均を左右する NY ダウは、高値 32752 ドル(5 月 10 日)・安値 31228 ドル(5 月 12 日)と推移、前の週と異なり、前半高・後半安の弱いかたち。先週は、11 日発表された米 CPI が予想を上回ったことで高インフレの長期化、連邦準備理事会(FRB)による金融政策引き締めで米経済が来年にもリセッション(景気後退)に陥るとの懸念からリスク資産を減らす動きが売り圧力となって下値目標値を下回り、週間ベースでは-703 ドル安と、7 週連続落で下落幅は-2665 ドル安に拡大、先週、「当局が死守したかったと思われる NY ダウ 34000 ドル台を割り込んで、次は 32000 ドル大台を意識したかたちで終了しています」と指摘し、次は 30000 ドル大台を意識した動きになると思いますが、7 週連続安は 1980 年冬以降で最長となった他、S&P500 種とナスダック総合も 6 週連続安で、S&P500 種は 2012 年秋以来、ナスダックは 2011 年春以来の最長の下げとなっています(先週予告していた上値メド 33437 ドル~34105 ドル(+2%かい離)//下値メド 32044 ドル~31403 ドル(-2%かい離))。「大台替えの法則」では、短期の大台替えて、時間切れとなっていました。5 月 12 日に 31500 ドル大台割れで下落スタートとなりましたが、逆に 13 日に 32000 ドル大台替えて仕切り直しが入りました。32500 ドル大台替えてカウントダウンの上昇局面、逆に、31500 ドル大台割れで下落スタートとなります。中期の方向を示す月ベースでは、5 月 5 日に 33000 ドル大台割れで下落スタート、10 日に 32000 ドル大台割れでカウントダウンの下落局面入りに 5 日間、従って、15 日(日曜日のため 16 日月曜日)までに 31000 ドル大台割れでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りました。逆に、33000 ドル大台替えて仕切り直しが入ります。長期の方向を示す月ベースでは、5 月に 33000 ドル大台割れで下落スタート、同月に 32000 ドル大台割れでカウントダウンの下落局面入りに 0 ヶ月、従って、5 月までに 31000 ドル大台割れでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りました。逆に、33000 ドル大台替えて仕切り直しが入ります。これで短期↑、中期↓、長期↓となり、中期長期の弱含みは変わりませんが、短期が強含みとなって方向が逆になったことで乱高下しやすいかたちに変化しました。中長期が強含みに変化する 33000 ドル大台替えまでは下落の時間が継続しているかたちです。

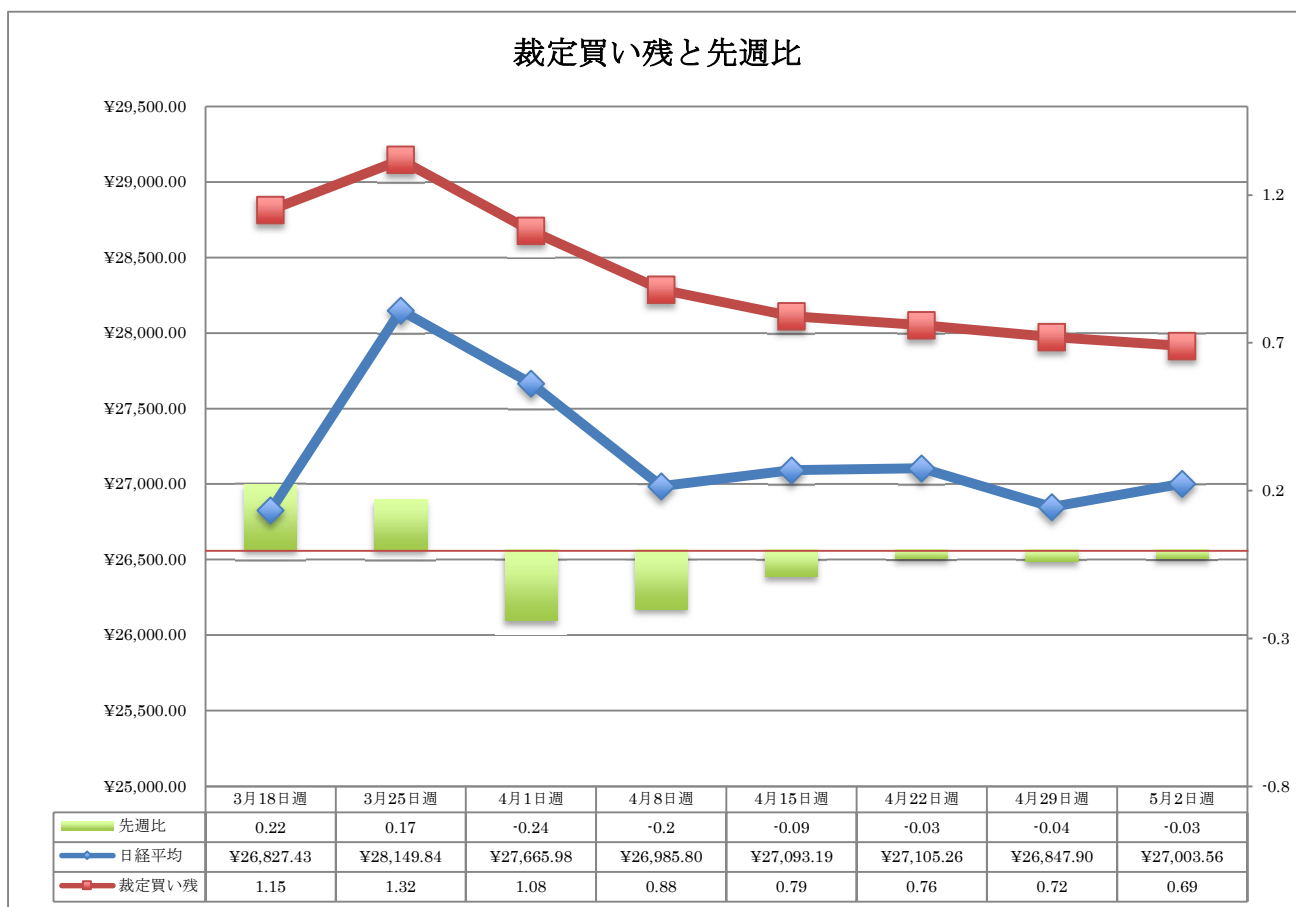
一方、為替は、ドル・円が 131.34 円~127.50 円(先週予告していた上値メド 132.75 円~134.07 円(+1%かい離)//下値メド 128.95 円~127.66 円(-1%かい離))と推移、下値目標値を達成し、実質

5 週間振りに円高・ドル安、ドル・ユーロは、1.0592～1.0348(先週予告していた上値メド 1.0567～1.0672(+1%かい離)//下値メド 1.0312～1.0208(-1%かい離))と推移し、上値目標値を達成し、3 週間振りにドル安・ユーロ高。また、ユーロ円は、138.30 円～132.61 円(先週予告していた上値メド 138.80 円～140.18 円(+1%かい離)//下値メド 134.69 円～133.44 円(-1%かい離))と推移し、下値目標値を下回り、3 週連続で円高・ユーロ安。前の週のドル>円>ユーロから円>ユーロ>ドルに変化、特に、ドル高が 3 週間振りに修正されたかたちです。米国の急速な金融引き締めや景気後退入り懸念などから世界的に株安となり、リスク回避的な円買いが強まった他、欧州中央銀行(ECB)のラガルド ECB 総裁が 7 月利上げを示唆したことからユーロ買いが一時、優勢となったものの、ウクライナ・ヘルソン州の親ロシア派勢力によるロシア編入要請方針の表明が嫌気されたことに加え、ユーロ圏経済の大幅な減速が警戒されたことからユーロ・ドルは一時、17 年 1 月以来となる 1.0350ドルまで売られています。

<裁定買い残・裁定売り残>

4 月 1 日週～8 日週の 2 週連続の 2000 億円超の減少を含め 6 週連続減少、6 週間で 6257 億円減少しています。減少前の 4 週間は+8953 億円増加させて、3 月末・9 月末の半年に一度の年度末を高くしたい何らかの組織が外国人を使って株価操縦をしていましたが、4 月からはその反動安の時間帯に入っています。昨年 8 月 30 日週～9 月 20 日週も 4 週連続増加させて、4 週間で+9451 億円増加させて 9 月末株価を不自然に高くした「4 週連続増加」「裁定買い残 1 兆円超」は今回も同じで、あまりにワンパターンの行動は「相場操縦」がバレバレで滑稽にしか映りません。実は、昨年 3 月末もピークとなった 21 年 3 月 22 日週 1 兆 4382 億円まで急増させ、株価を高くする株価操縦らしきことを行っています。このような株価操縦らしきことをいつまで続けるつもりかは分かりませんが、それが外国人にもバレていて、円安になっても外国人の買いが増えない理由の一つです。昨年 3 月の株価操縦後は半年後の昨年 9 月までに 3000 円幅の下落、昨年 9 月の株価操縦後は半年後の今年 3 月までに 5000 円幅の下落でしたが、今 3 月の株価操縦後は半年後となる 9 月にどの水準まで下落しているかが注目されます。4 度目の「相場操縦」が 9 月末にまたあるのかもしれませんが、少なくともその前に今 3 月終値最安値 25162 円を下回することは当然の流れかと思われます。一方、「裁定売り残」は、前の週比+246 億円の 2849 億円→-107 億円の 2741 億円と、2 週連続増加した後、3 週間振りに減少していますが、方向感に欠け、まだまだ本格的に売り崩しに利用されていないことが分かります。「いつ本格的な売り崩しに進むのかを見極める段階」と思われます。「裁定買い残」の推移を振り返ると、18 年 9 月 14 日週～28 日週の 3 週間合計で+1.12 兆円の急増となり、18 年 5 月 21 日週以来、約 4 ヶ月振りに 2 兆 5000 億円を回復して 18 年 10 月 2 日の日経平均の年初来高値更新を演出。その後、18 年 10 月 1 日週～10 月 26 日週の 4 週連続減少、4 週間合計で約 1.5 兆円急減、この 4 週間のうち 1 週間は 5000 億円と 18 年 2 月 5 日週以来

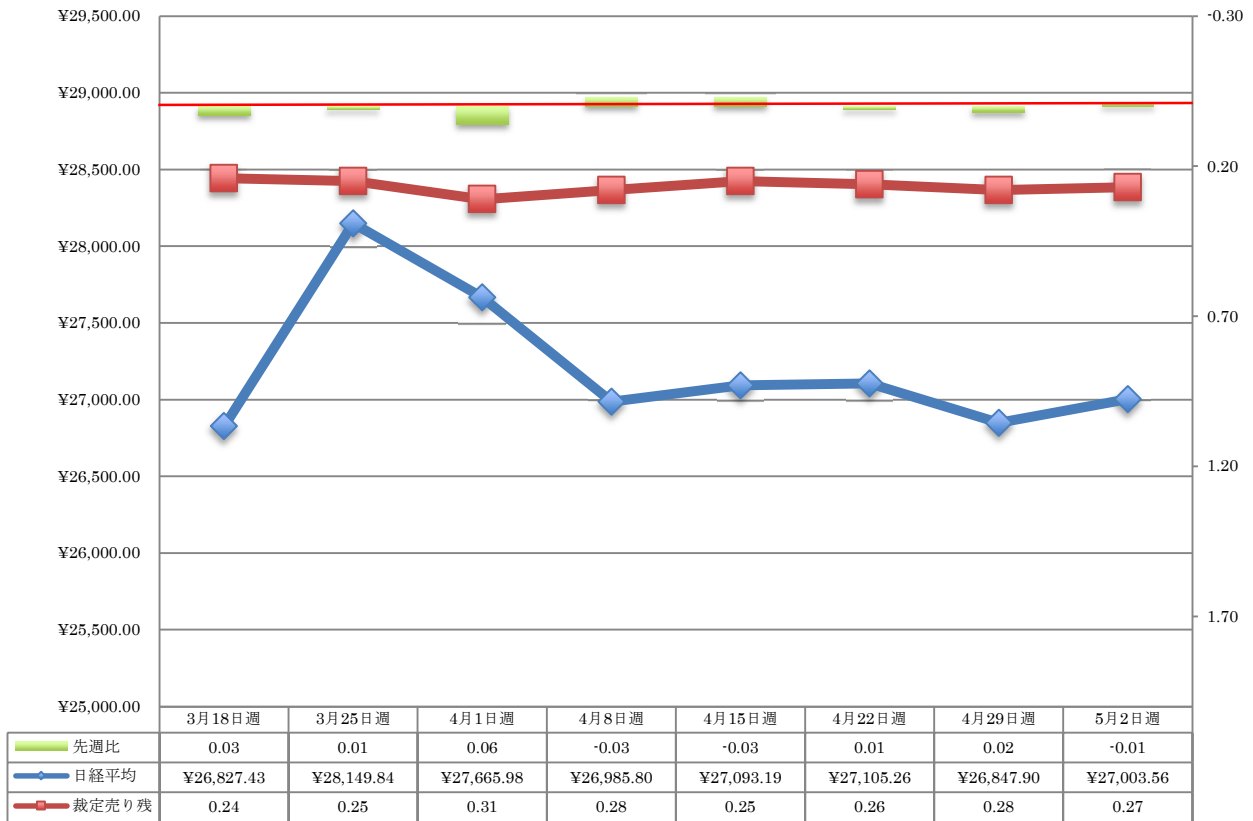
の急減で、やはり18年10月からの暴落は「VIXショック」と同様、投機筋の外国人の売り仕掛けだったことを証明しています。



4月15日週	4月22日週	4月29日週	5月2日週
¥27,093.19	¥27,105.26	¥26,847.90	¥27,003.56
0.79	0.76	0.72	0.69
-0.09	-0.03	-0.04	-0.03

単位:兆円

裁定売り残と先週比



4月15日週	4月22日週	4月29日週	5月2日週
¥27,093.19	¥27,105.26	¥26,847.90	¥27,003.56
0.25	0.26	0.28	0.27
-0.03	0.01	0.02	-0.01

単位:兆円

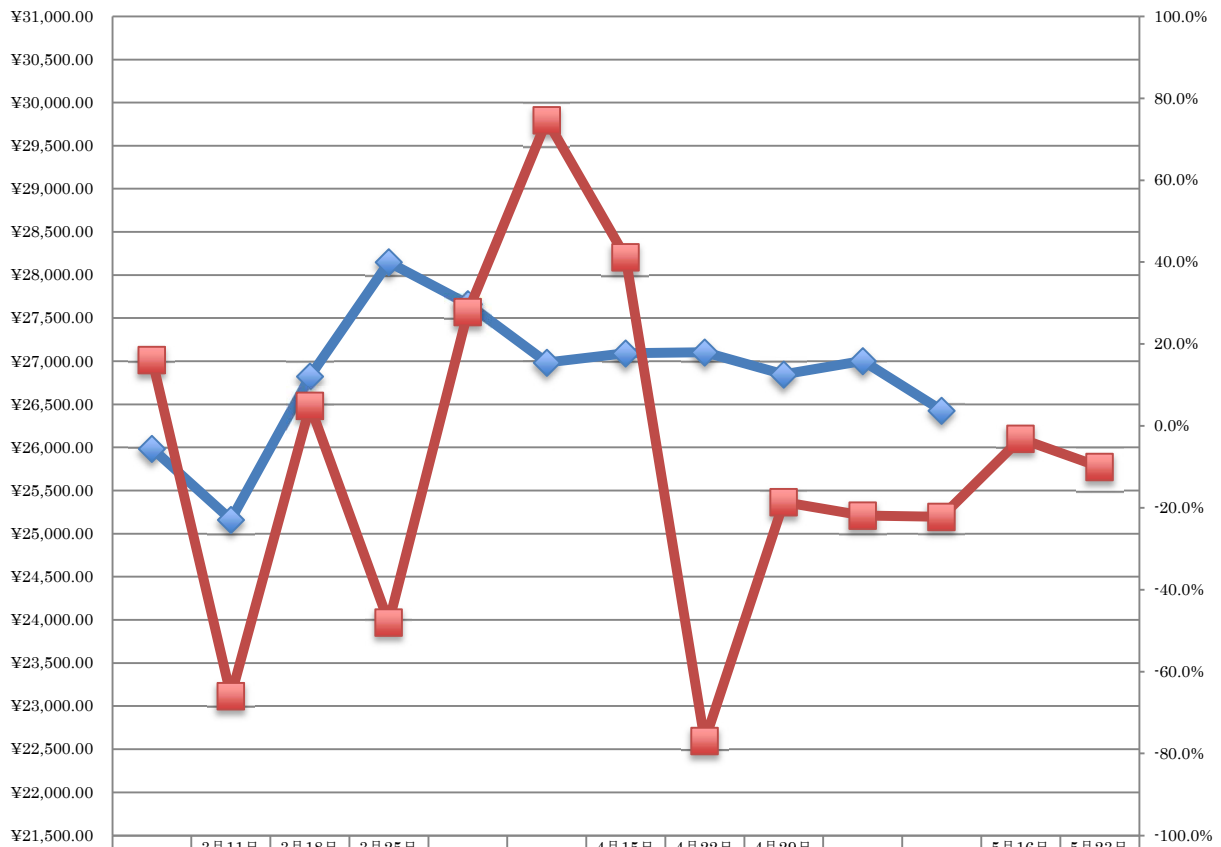
<今週のマーケットの見通し>

今週は本来ですとさらに軟調相場が継続する週となりそうです。今週(5/16~5/20)の相場を占う『RU-RD 指標』の5月6日週が-3.1%と5週連続でマイナス圏に陥っていることから、さらに軟調相場が継続しそうです。また来週(5/23~5/27)の相場を占う5月13日週が-10.0%と6週連続でマイナス圏に陥っていることから、さらに軟調相場が継続しそうです。6週連続でのマイナス圏は2010年4月19日週~5月24日週の6週連続マイナス圏以来と、12年振りの極めて希な現象です。当時は、民主党政権誕生への期待から2010年4月高値11408円まで上昇しましたが、その後、8月安値8807円まで4ヶ月で-22%の急落となっており、それを暗示する「6週連続マイナス圏」となったかたちです。今回もどのような下落を暗示する「6週連続マイナス圏」となるのかが注目されます。先々週、『4週連続マイナス圏は21年9月13日週~10月4日週以来で、このときの4週連続マイナス圏は、コロナショック以降の最高値を記録した21年9月17日週高値30795円→10月8日週安値27293円まで-3502円、-11.7%の急落となっています。先週も指摘したように、今回の4週連続マイナス圏での高値は4月5日高値28020円で、その後の安値は今のところ4月27日26051円です。現段階では、高値から-1969円、-7%の急落となっていますが、仮に、前回9月の下落幅-3502円を当てはめると約24500円、また下落率-11.7%を当てはめると約24700円と試算されることから、まだ下落余地が残されている可能性があります。』と指摘しましたが、この「4週連続マイナス圏」を超える下落が近い将来表れることを暗示したことになります。また、『日本では年度末にあたり、3月末の株価をどうしても高くしなければいけない不都合な事情があるのかと思われる。実際、昨年3月や9月にも同様な株価操縦がみられ、特に、昨年8月末の「菅首相総裁選不出馬」を理由に株価を吊り上げて9月末株価を高くしたことは記憶に新しいところです。つまり、半期に一度の年度末の株価を株価操縦しなければならないほど何らかの組織は追い込まれている実態が浮かびあがっています。』と何度も何度も指摘してきたように、現在はその「株価操縦」の反動安の時間帯に入っていることを意味します。一方、『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング1と2)」「売り(レーティング3と4)」銘柄比率』が22年4月1日週+61.4%→4月8日週+7.1%→4月15日週-1.4%→4月22日週-10.0%→4月29日週-14.3%→5月6日週-14.3%→5月13日週-14.3%と3週連続同じ値となっていることは不思議ですが、5週連続でマイナス圏に陥っています。今回も3月21日週+51.4%→3月28日週+61.4%と、2週連続の「上限ゾーン」からのマイナス圏への急落ですが、半年前の昨年9月にも21年9月6日週+50.0%→9月13日週+47.1%の2週連続の「上限ゾーン」からのマイナス圏への急落で、T2指標の観点からは昨年9月も、今3月も同じような動きになっていることから両時期の「株価操縦」を証明したかたちです。ちなみに、移動平均ベースの同指標は4月8日週+1.0%→4月15日週+6.2%→4月22日週+12.6%→4月29日週+15.7%→5月6日週+4.8%→5月13日週-7.9%と、6週間振りにマイナス圏に陥りましたが、過去、株価が底入れするにはこの移動平均ベースの同指標が「-40%の下限ゾーン」に陥ることが条件です。従って、T2指標から見れば、「株価底入れ」はまだまだ先の

話ということになります。今年はショートカバー(売り方の買い戻し)で相場が急反発する「ブルトラップ(強気のワナ)」を繰り返していることも特徴ですが、楽観的な市場関係者がいつものように何度も「株価底入れ」発信をしてもことごとく裏切られる結果となっているのはその「ブルトラップ(強気のワナ)」に陥っているためです。つまり、「ブルトラップ(強気のワナ)」は08年の「リーマンショック」以降、続いてきた「量的緩和相場」が転換点を迎えているためであり、これまでの楽観論が通用しなくなっていることを示しています。先週末13日のミニSQ後に急反発が起きたことでいつものように楽観的な市場関係者からは「株価底入れ」のコメントが増えるかもしれませんが「ブルトラップ(強気のワナ)」には注意が必要かと思われます。

今週は、経済指標では、国内は、5月16日に4月企業物価指数、4月工作機械受注、18日に1-3月期GDP速報値、19日に4月貿易収支、3月機械受注、20日に4月全国消費者物価指数、一方海外で、5月16日に中国4月鉱工業生産、中国4月小売売上高、米5月ニューヨーク連銀景気指数、17日に米4月小売売上高、18日に米4月住宅着工件数、19日に米5月フィラデルフィア連銀景気指数、米4月中古住宅販売、20日に欧5月ユーロ圏消費者信頼感指数、などの発表が予定されています。17日発表の米4月小売売上高は前月比+1.0%と、3月実績の+0.7%を上回る見通しですが、景気減速懸念が警戒されるなかで経済の7割を占める個人消費が好調を持続できるかが焦点になりそうです。20日発表の日本の4月消費者物価指数(コア指数)は携帯電話の値下げ効果が薄れ、日本銀行が目標としてきた前年比+2%前後の物価上昇が予想されていますが、日銀の現行の金融緩和策姿勢にどのような影響を与えるかが注目されます。このほかのイベント・トピックスとしては、海外は、5月18日~20日まで開催されるG7財務大臣・中央銀行総裁会議の他、17日米・パウエル連邦準備制度理事会(FRB)議長のウォール・ストリート・ジャーナル(WSJ)主催会議での講演、米・セントルイス連銀総裁のオンライン会議での講演、18日に米・フィラデルフィア連銀総裁のオンラインイベントでの講演、などが注目されます。

RU-RD指標と日経平均（週末終値）



	3月4日週	3月11日週	3月18日週	3月25日週	4月1日週	4月8日週	4月15日週	4月22日週	4月29日週	5月2日週	5月9日週	5月16日週	5月23日週
日経平均	¥25,985.4	¥25,162.7	¥26,827.4	¥28,149.8	¥27,665.9	¥26,985.8	¥27,093.1	¥27,105.2	¥26,847.9	¥27,003.5	¥26,427.6		
RU-RD	16.1%	-66.0%	4.90%	-48.0%	27.8%	74.7%	41.2%	-76.9%	-18.6%	-21.9%	-22.2%	-3.1%	-10.0%

5月2日週	5月9日週	5月16日週	5月23日週
¥27,003.56	¥26,427.65		
-21.90%	-22.20%	-3.10%	-10.00%

■■■ 今週の各指標の上値・下値メド ■■■

<日経平均>

上値メド 26727 円～27261 円 (+2%かい離)

下値メド 26051 円～25529 円 (-2%かい離)

<NY ダウ>

上値メド 32578 ドル～33229 ドル (+2%かい離)

下値メド 31219 ドル～30594 ドル (-2%かい離)

<ドル円>

上値メド 131.38 円～132.69 円 (+1%かい離)

下値メド 128.59 円～127.30 円 (-1%かい離)

<ドルユーロ>

上値メド 1.0534～1.0639 (+1%かい離)

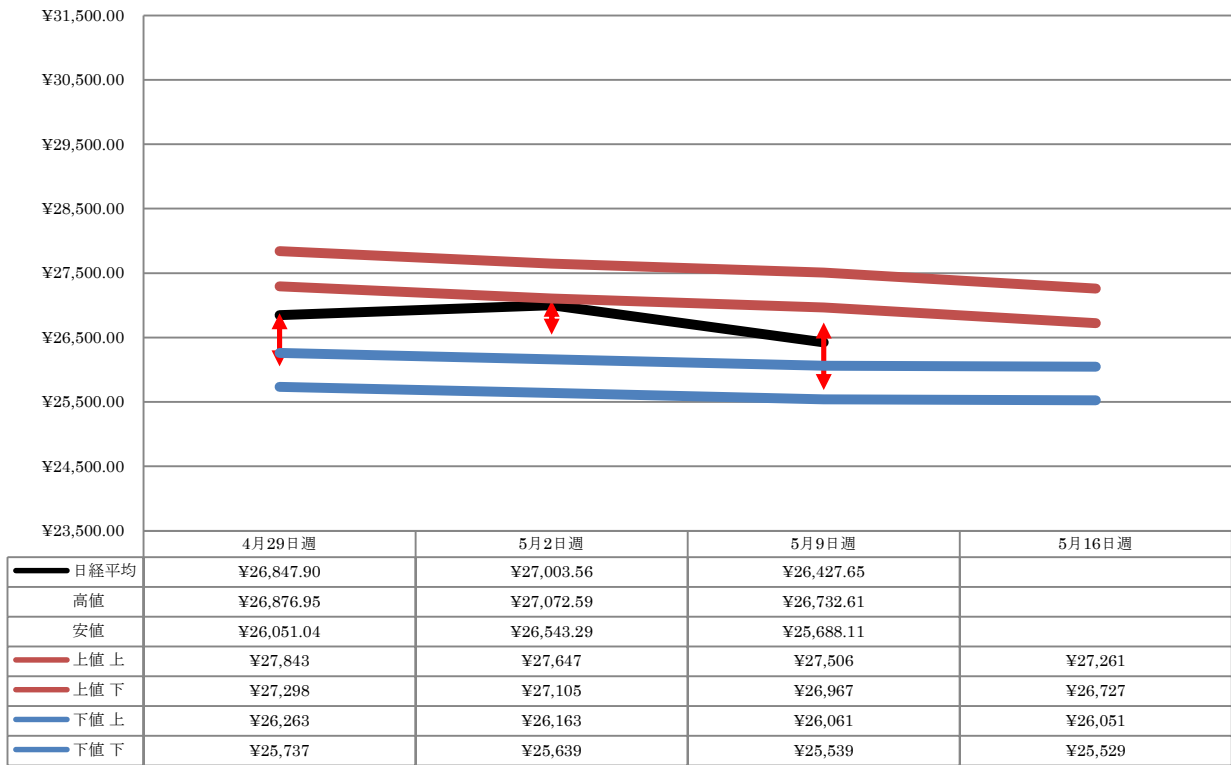
下値メド 1.0307～1.0203 (-1%かい離)

<ユーロ円>

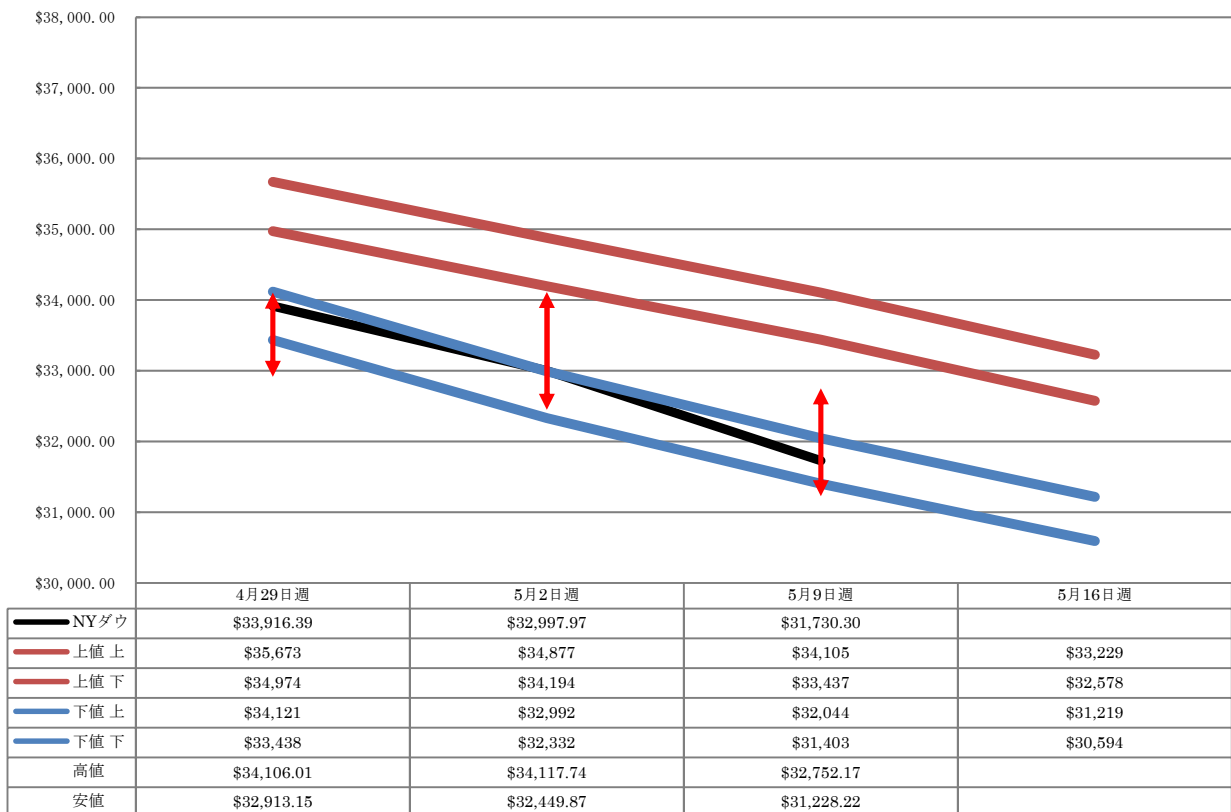
上値メド 137.16 円～138.53 円 (+1%かい離)

下値メド 134.01 円～132.66 円 (-1%かい離)

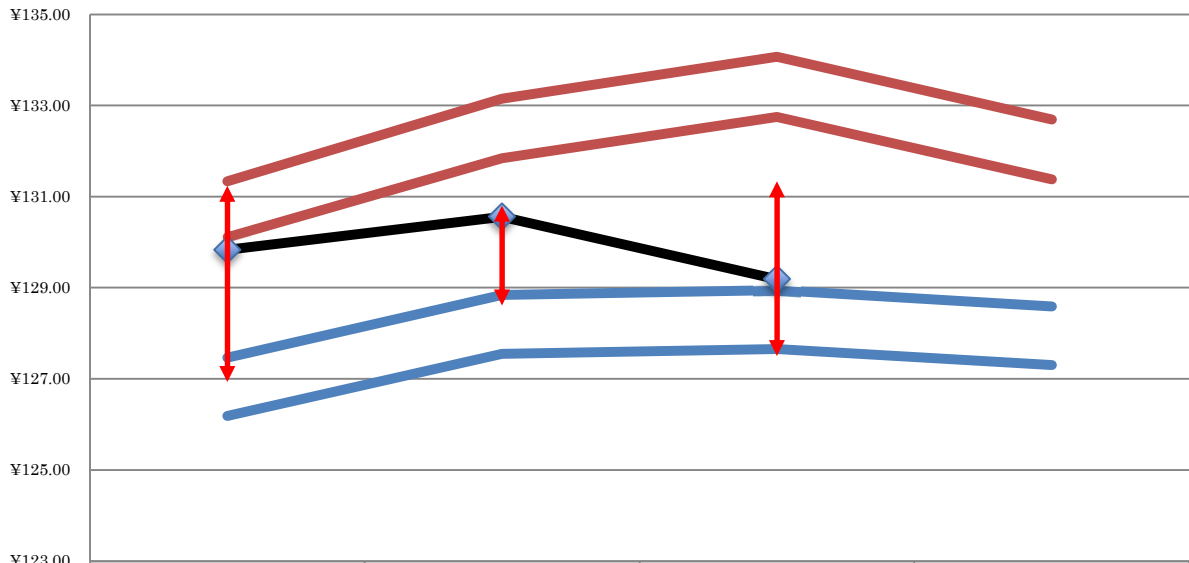
日経平均



NYダウ

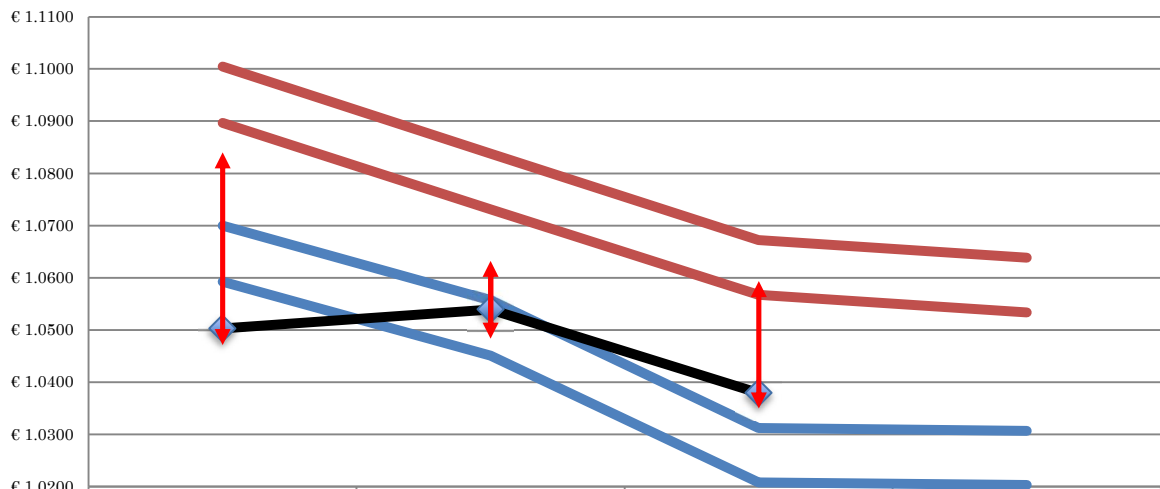


ドル円

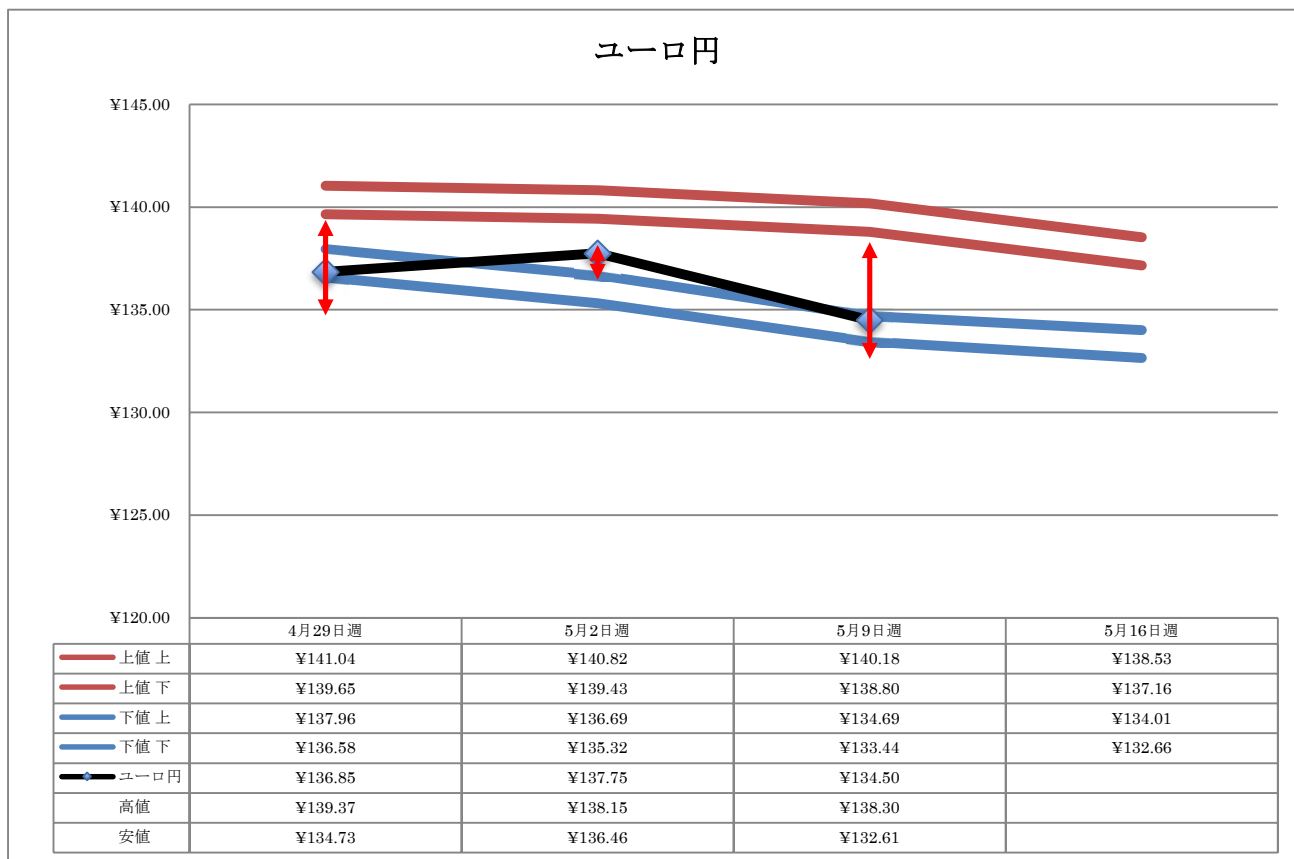


	4月29日週	5月2日週	5月9日週	5月16日週
上値 上	¥131.34	¥133.15	¥134.07	¥132.69
上値 下	¥130.11	¥131.84	¥132.75	¥131.38
下値 上	¥127.47	¥128.84	¥128.95	¥128.59
下値 下	¥126.19	¥127.55	¥127.66	¥127.30
ドル円	¥129.83	¥130.56	¥129.19	
高値	¥131.24	¥130.80	¥131.34	
安値	¥126.93	¥128.61	¥127.50	

ドルユーロ



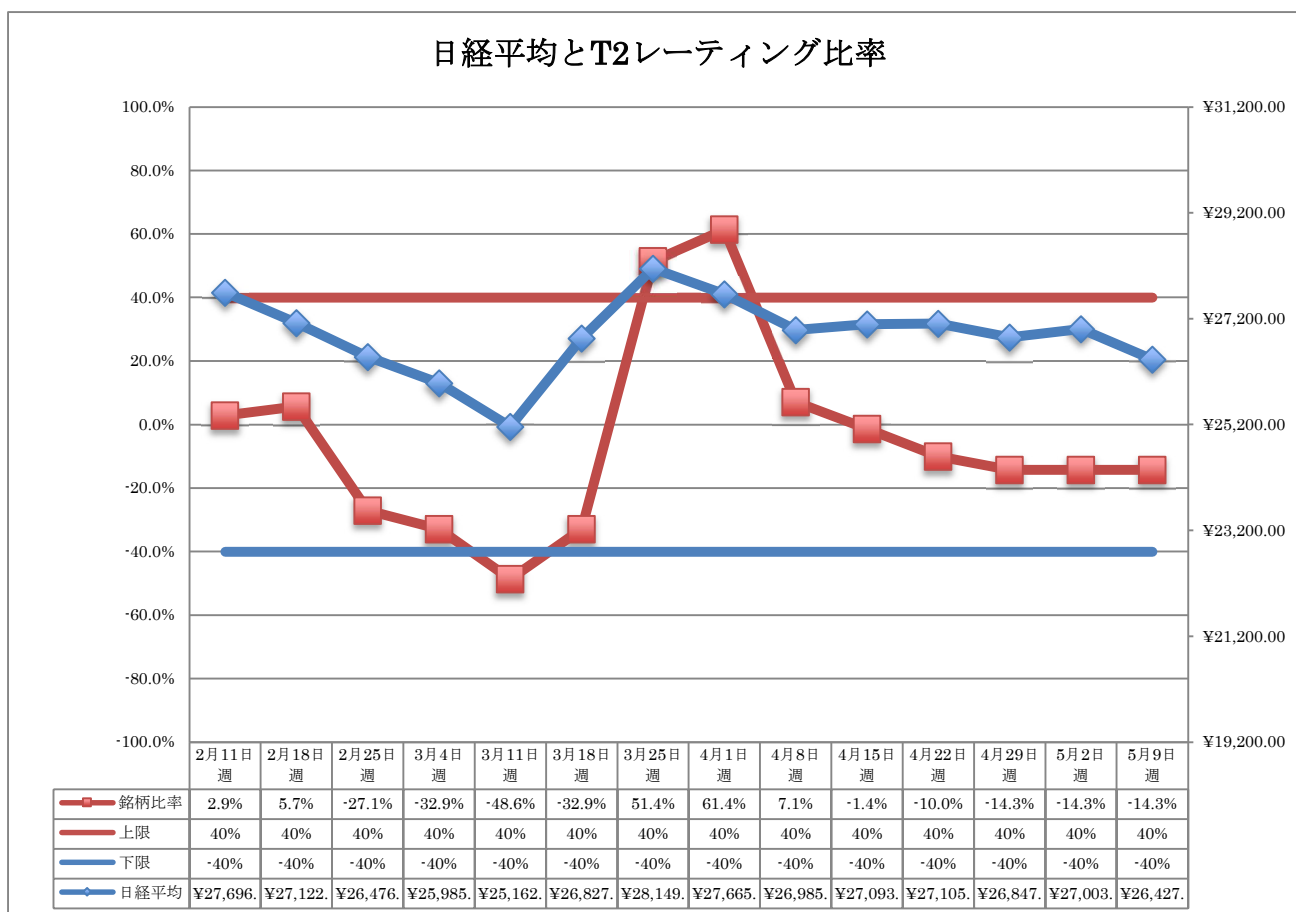
	4月29日週	5月2日週	5月9日週	5月16日週
上値 上	€ 1.1005	€ 1.0838	€ 1.0672	€ 1.0639
上値 下	€ 1.0897	€ 1.0731	€ 1.0567	€ 1.0534
下値 上	€ 1.0700	€ 1.0557	€ 1.0312	€ 1.0307
下値 下	€ 1.0593	€ 1.0451	€ 1.0208	€ 1.0203
ドルユーロ	€ 1.0503	€ 1.0540	€ 1.0379	
高値	€ 1.0840	€ 1.0633	€ 1.0594	
安値	€ 1.0471	€ 1.0483	€ 1.0350	



■■■ レーティング変更 ■■■

同指標は日経平均に多少先行しますが一致指標。同指標は、22年4月1日週+61.4%→4月8日週+7.1%→4月15日週-1.4%→4月22日週-10.0%→4月29日週-14.3%→5月6日週-14.3%→5月13日週-14.3%と3週連続同じ値となっていることは不思議ですが、5週連続でマイナス圏に陥っています。今回も3月21日週+51.4%→3月28日週+61.4%と、2週連続の「上限ゾーン」からのマイナス圏への急落ですが、半年前の昨年9月にも21年9月6日週+50.0%→9月13日週+47.1%の2週連続の「上限ゾーン」からのマイナス圏への急落で、T2指標の観点からは昨年9月も、今3月も同じような動きになっていることから両時期の「株価操縦」を証明したかたちです。ちなみに、移動平均ベースの同指標は4月8日週+1.0%→4月15日週+6.2%→4月22日週+12.6%→4月29日週+15.7%→5月6日週+4.8%→5月13日週-7.9%と、6週間振りにマイナス圏に陥りましたが、過去、株価が底入れするにはこの移動平均ベースの同指標が「-40%の下限ゾーン」に陥ることが条件です。従って、T2指標から見れば、「株価底入れ」はまだまだ先の話ということになります。今年はショートカバー(売り方の買い戻し)で相場が急反発する「ブルトラップ(強気ワナ)」を繰り返していることも特徴ですが、楽観的な市場関係者がいつものように何度も「株価底入れ」発信をしてもことごとく裏切られる結果となっているのはその「ブルトラップ(強気ワナ)」に

陥っているためです。つまり、「ブルトラップ(強気のリナ)」は 08 年の「リーマンショック」以降、続いてきた「量的緩和相場」が転換点を迎えているためであり、これまでの楽観論が通用しなくなってきたことを示しています。先週末 13 日のミニ SQ 後に急反発が起きたことでいつものように楽観的な市場関係者からは「株価底入れ」のコメントが増えるかもしれませんが「ブルトラップ(強気のリナ)」には注意が必要かと思われます。



□発行元:塚澤.com 運営事務局

□ご意見・ご感想:info@tsukazawa.com

※免責事項※

「塚澤.com 今週の T2 経済レポート」は、

株式会社ライブグラフィー(以下、当社)が提供するレポートです。

これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いかねます。

提供する全ての情報について、当社の許可なく転用・販売することを禁じます。